

しつもん

?

保護者に子どもの療育を勧めたい時、どのような伝え方をしたら良いでしょうか？（幼稚園の先生）

.....

かいとう

A

そのような話題に対してどのように伝えるか、慎重になる場所ですね。療育を勧める、ということは、お子さんの発達の遅れ（＝障害）について言及するということですから、保護者の方が受け入れてくれるかどうか、場合によっては、反発したり怒ったりするのではないかと心配になる場所ですね。

このような困り事は、どこの幼稚園・保育園・学校でもある話で、インターネット上でもこの話題に関連する記事がたくさんあります。私はそのようなことを直接経験したことはありませんので、私が説明するよりも的確でしょう。リンクを貼っておきます。そちらをご参照ください。



「発達面が気になる子がいた時、保護者にどう伝える？」



「発達が気になる子の保護者への対応」



「特別支援学級への通級を勧めたいが、どう伝えればよい？」



「子どもの発達／知的障害を保護者に告げるときのこと」

せっかくご質問いただいたのに、ネット上の記事をもって回答することは望ましくないことかもしれませんが、記事を読んでいただけるとわかりますが、本質的なことは今日の研修（＊私が講師として研修

を行った後にいただいた質問です）と同じことが書かれています。シンプルなたとえ話をすると、プロポーズをする時のことを考えてみましょう。プロポーズとは、ほとんどの人は相手はきっと受け入れてくれるだろうと自信がある時にするものです。反対に言えば、付き合っただけの相手に対してプロポーズをすることはありませんし、付き合っただけの期間が経ったとしても、タイミングや雰囲気的に今プロポーズしてもうまくいかないだろうと感じる時にはしないものです。この人だったら結婚してもいいな、結婚したいな、と思える人がいたとして、その人のプロポーズの伝え方によって、質問者様の答えは変わるでしょうか？よほどひどいプロポーズでない限り、プロポーズを受け入れるのではないのでしょうか。つまり、伝え方の問題ではなく、そこに至るまでの関係性ができているかどうか、受け入れてもらえるだけの関係性になっているかどうかの方がはるかに重要なのです。療育や子どもの発達のことを伝える場合もこれと同じようなものだと考えられるのではないのでしょうか。

せっかくの機会なので少し違う視点から話をさせていただくと、このような状況では、先ほども書いた通り、反発されることや理解が得られないかもしれないという心配があるので、このようなご質問をされているのだらうと推測します。反発される・理解してもらえないことの問題の本質は、「療育に繋がらない」という表面的なことではなく、「子どもの今の状態を理解してもらえず、適切な養育・保育が子どもに提供されない」ということだと私は思います。逆に言えば、療育に繋がらなかったとしても、子どもの今の状態を理解してもらい、適切な養育・保育の提供に保護者も幼稚園も十分な努力がされている状況になっていれば、問題は大きくないと考えすることもできます。その視点で園側が何を意識してどうアプローチするべきかを整理することも必要でしょう。

療育の必要性や障害があるなしに関わらず、子育てというものは、子どもの今の状態を理解し、適度なハードルを設定し、どのように関わったらそのハードルを飛び越えられるのかを試行錯誤する、それでも難しい場合にはいつか成長してくれるまで根気強く待つ、ということの繰り返しです。まずはそのプロセスを繰り返し、保護者とも共有し、工夫や努力をした結果、それでもうまくいかないため「療育という専門の訓練の場が必要」「今の状態を正しく理解するために発達検査や医学的な診断が必要」「幼稚園や家庭の中でどう関わるべきかのアイデアをもらうために専門機関に相談に行くことが必要」という次の一手へと展開していく、そんなイメージで保護者の方と話し合いを進めていくことが良いでしょう。それでも尚、保護者が抵抗を示す場合や保護者が受け入れられない場合、それは保護者として当然の心情とも言えます。園としてはもどかしくなるとは思いますが、その前段として、保護者と園とで話し合いがたくさんなされ、様々な工夫や努力が既になされているのであれば、たとえ療育には繋がらなかったとしても、その子のために手を尽くし、「子どもの今の状態を理解してもらい、適切な養育・保育の提供に、保護者も幼稚園も十分な努力がされている」状況に近いものになっている、そのように考えることもできるのではないのでしょうか。

そうは言っても、園の先生的心情的にはそう簡単に割り切って考えられる問題ではありませんよね。もしかすると、早く次の展開に繋がなければ、その子だけの問題ではなく、お友達、クラス運営、先生の物理的・心理的な負担など、様々な面で問題が生じてしまうような状況もあるかもしれません。でも、そのような状況になっているにも関わらず保護者の方が受け入れてくれない場合には、どう工夫しても無理、誰がやっても無理、ということなのだと思います。妙案を出せず力不足で申し訳ありませんが、その

ような時こそ、療育に繋がる繋がらないという問題はいったん置いておいて、「子どもの今の状態を理解してもらい、適切な養育・保育の提供に、保護者も幼稚園も十分な努力がされている」状況をどう作るか、その本質的な部分に目を向けていくことが、最もお子さんのためになることなのだと思います。